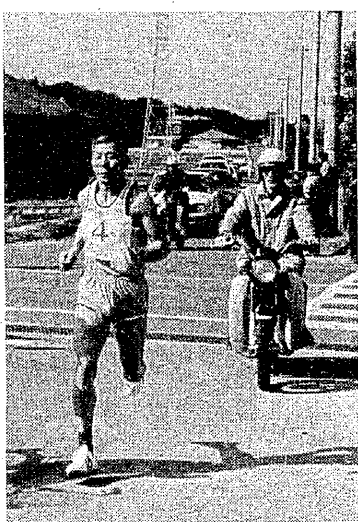


政治決戦・春闘への決意こめて 好天のもと荒地評駅伝

好記録で連続優勝



最高年齢賞の西田さん
2区(増永交叉点で)

三月六日第八回荒地評駅伝大会の記録を大幅に更新する一
会が行われ、三池労組チームは昨
年につぎ連続優勝をかき取りま
した。これで通算四勝したことな
ります。この日は絶好の日和に恵
まれ、九車産八チームあわせて九
十六人が市内十二区間十九・七キ
ロにわたって力走、沿道の応援に
こたえました。

大会は、まず九時半から荒尾市
役所前で開会式が行われ、式島荒
地評会長のあいさつのおと、参加
選手を代表して三池労組の芳川勝
さんが宣誓、十時ちょうどに同所
をスタートしました。

前半は接戦を繰り返して、前半
が、三池労組チームは五区でトッ
プに立ちそのあと次第に差をひ
ろげて、運動公園のゴールには前

- 三池労組の出場選手は、1区・
野田幹郎さん(三川)、2区・芳
川勝さん(三川)、3区・西田武
幸さん(四山)、4区・津波吉文
男さん(三川)、5区・宮本慶一
郎さん(四山・子弟・中3)、6
区・佐藤徳士さん(三川)、7区
前田忠さん(三川)、8区・白木
光雄さん(三川)、9区・甲斐田
鶴さん(三川)、10区・田中誠一
さん(四山・子弟・中3)、11区
田中誠子さん(四山・主婦)、12

区・田中国洋さん(四山)、補欠
松藤末男さんの皆さんです。
「思はず力が入った」、「平均
年齢はいちばん高いのだが」、と
終了後緑が丘の敷島闘争本部で
われた慰労会で語っていました。



健闘した三池労組チームの面々

- 三池労組同好会(高木哲雄
会長・会員三十人)では三月六日
第二回総会を開きました。
- 当日は十八人の会員が集まり、
会長あいさつ、組合代表あいさつ、
会計報告、役員改選のあと、前年
優勝の猿渡章博さんから優勝杯の
返還が行われ、三パートに分かれ
て熱戦が繰りひろげられました。
- 今年度の役員は、会長・高木哲
雄さん(四山)、副会長・谷崎千
守さん(三川)、事務局長・井口
勝吉さん(三川)、事務局次長・
加藤秀雄さん(三川)、会計・久
保田隆男さん(四山)、監事・村
中利行さん(四山)、沖克太郎さ
ん(三川)、村上静雄さん(三川)
監査・浦川秀夫さん、猿渡章博さ
ん(港務)です。
- 当日の成績は次の通りでした。
- ▼Aパート
一位 金子 八郎(O B)
二位 高木 哲雄(4分金)
三位 猿渡 章博(18分金)

囲碁愛好会が総会

優勝杯は宮崎さんに

- ▼Bパート
一位 沖 克太郎(15分金)
二位 井上 文雄(15分金)
三位 荒木 一徳(11分金)
- ▼Cパート
一位 宮崎 勝(1分金)
二位 大野 源六(5分金)
三位 黒田 定(16分金)
- なお、総合優勝は宮崎勝さん。



【あいつする高木会長】

女坑夫の語り聞きから

湯 文 字

十六分会(本所) 武松輝 男

その一

「あなたナ、オナゴン褲はめ
とるもんで、キラキラ光った
とことハ見たことハなからう」
と云う。オナゴン美しゅう見ゆる
女坑夫が、坑内で働くことを禁
止された昭和五年に生まれたのだ
から、目も開くか開かぬかのとき
で、瞳孔も定かでない。だからチ
ラツとも見るはずもない。

「そりゃあネ、色気あった。
あんまりして、キメン細か、柔か
あか肌が、まっ暗か坑内で、安全
灯の明りに照らさるって、汗の出
上層をドロツとなめた。よほど

い目にあつたのだらう、と水を向
けてはみたが、まあネ、と言った
きりであった。

「じいちゃん、言わんネ」
「バカ言え」
「じいちゃんナ。ソウナよか目
におうとらすとすババ」
女坑夫が坑内で働くことが禁止
になって、女坑夫が坑内へ下から
なかつた日は、探炭夫の出勤率が
半分に減ったこと。

それは、黒い炭壁と、荒い坑
木で囲われた探炭切羽が殺風景す
まるからか。それとも、あすの生
き死にすわらわらない、地獄の一
丁目といわれる坑内で、地獄のほ
んの手前での、ひそかな楽しみが
なくなつたからか。

ソウナよか目におうとらすとすバ
バ、と老坑夫の妻は言う。そ
の老坑夫をよか目にあわしてくれ
た女坑夫の禱姿は、いつからはじ
まったものか。

「わたしが、はじめて坑内に下
がつたのは大正元年の十一月でし
たデス。」



モジをいじつたですババ」
ハモジとは湯文字と同じ意味を
もっている方言だが、詳しく言う
と、湯文字の生地が違っている。
もともと、三池炭坑で間部掘り
をしていた頃は、湯文字だけで禱
は体にまとわりついて、しまつて
なつたつてすたじ

悪い。そで、女坑夫たちは湯文
字を短かくした。

「ホラ、坑内の写真で、短かか
腰巻きはしつとがあるでしつと
うが。あれは、湯文字、腰巻きで
すたいナ、それが暑かもんで短く
うなつたつてすたじ

「腰巻きは、色は黒か、濃い
紺でしたもん。そん腰巻きで仕事
バシつと、割るつてすたい。そ
んとき、チラツと見ゆる太モモは
そらあ特別に白う……」

「じいちゃん」
だから、湯文字の背に、バツ印
の麻除けをつけてあるのだが、効
果があつたのかどうか。

(カットも筆者)

昭和四十四年初秋、忙がしい
毎日だったが、たまには頭を休
めよう三池灯台堤防付近へ釣
行した。夜釣りである。

もうその頃には、グラス竿が
普及していた。

風も波もないベタナキである。
もう少し波立つた方がよかばい、
と思ひながら流している。二
年メイタが続けて二枚あがつた。
先の方でも調がよいのだから。
振り込み竿の鈴がよく鳴ってい
る。

どのくらい経つたらうか。左
脚の切断部が冷やひやすのに
気が付いた。

何気なく「ヒョー」と下を見ると、
満ち上がった潮が磯足のふくら
はきまできており、温気防止に
空けている穴から、潮水が入り
込んでいる。

「フエーン」
びびりびびり、脚を持ち上げ
たときに、横に置いていた餌
箱を引っくり返し、餌の半分を
海に落ちてしまった。

「しもたあー」
「まあまあ、餌も半分は残っ
ているのでよか方たい」といっ
て堤防に上がり、今度は脈釣り
である。

やがて流れ竹に糸が引つか
かり、ググーンと引き込ま
れた。ググーンと左右に走る。
それに合わせて流れ竹もついて
走るのである。

フエーンと軽くなった。リー
ルを巻いて「メートル近く、魚
を浮かせたろうかまた軽くなっ
た。もうこっちのものである。
ルールを巻くと、竹が一掃につ
いて上がってきた。ライトを当

てると、やはり竹の端に餌がか
らんでいる。その端からまた糸
が伸びていて、よく見ると餌は
その糸に引つかかっている。

「フエーン」
はらはらしながら、ようやく
魚を浮かせ、竹をつかんで強
引に引き上げた。二キロはあつ
たろう。

「フエーン」と息。
俺の推察通り、竹の穂先と二
番竹であった。

だれかが大物とたたかっている
うち、差し込みが甘くてスポ
ンと抜けてしまい、魚がこま
で引張ってきたのだらう。今
どき、まだ竹竿を使っている人
もいるんだなあと感じた。

しばらく釣っていたが、餌も
きれたし、魚を奪ねてくる人も
なし、折角だからもう一つお
うと帰る仕度にとりかかった。

「フエーン」
びびりびびり、脚を持ち上げ
たときに、横に置いていた餌
箱を引っくり返し、餌の半分を
海に落ちてしまった。

「しもたあー」
「まあまあ、餌も半分は残っ
ているのでよか方たい」といっ
て堤防に上がり、今度は脈釣り
である。

やがて流れ竹に糸が引つか
かり、ググーンと引き込ま
れた。ググーンと左右に走る。
それに合わせて流れ竹もついて
走るのである。

フエーンと軽くなった。リー
ルを巻いて「メートル近く、魚
を浮かせたろうかまた軽くなっ
た。もうこっちのものである。
ルールを巻くと、竹が一掃につ
いて上がってきた。ライトを当



釣りキチ大乱闘

連載第二十二回

フエー、フエーの巻

石田 鈍 竿